

事例研究報告

高等部生徒が安定した登校ができるための方法と教員の関わり方

児童・生徒の実態

- ・高等部
- ・大きな声や大きな音が苦手。
- ・登校したら授業に参加したいという思いがあり、疲れている状態でも参加して翌日欠席してしまうことが多い。
- ・自分の状態や気持ちの理解が難しいところがある。
- ・自分の話を聞いてほしい気持ちが強い。
- ・異性間交流に興味がある。(SNSのつながり)
- ・お気に入りのぬいぐるみがあり、抱きしめて気持ちを安定させることができる。
- ・クラスメートと楽しく過ごせるようになりたいという願望がある。
- ・行事やイベントに参加することが好き。

保護者の願い

- ・安定して登校できるようになってほしい。
- ・安心して学校生活を送ることができるようにになってほしい。

教員の願い

- ・自分の今の状態（気持ち・体力）を把握できるようになってほしい。
- ・自分に負担のない授業の参加方法を選択できるようになってほしい。
- ・不安な状態の解決策を自分で選択・決定してほしい。

指導目標の案

ステップ1

決められた時間(10:00~14:00)毎日登校することができる。

ステップ2

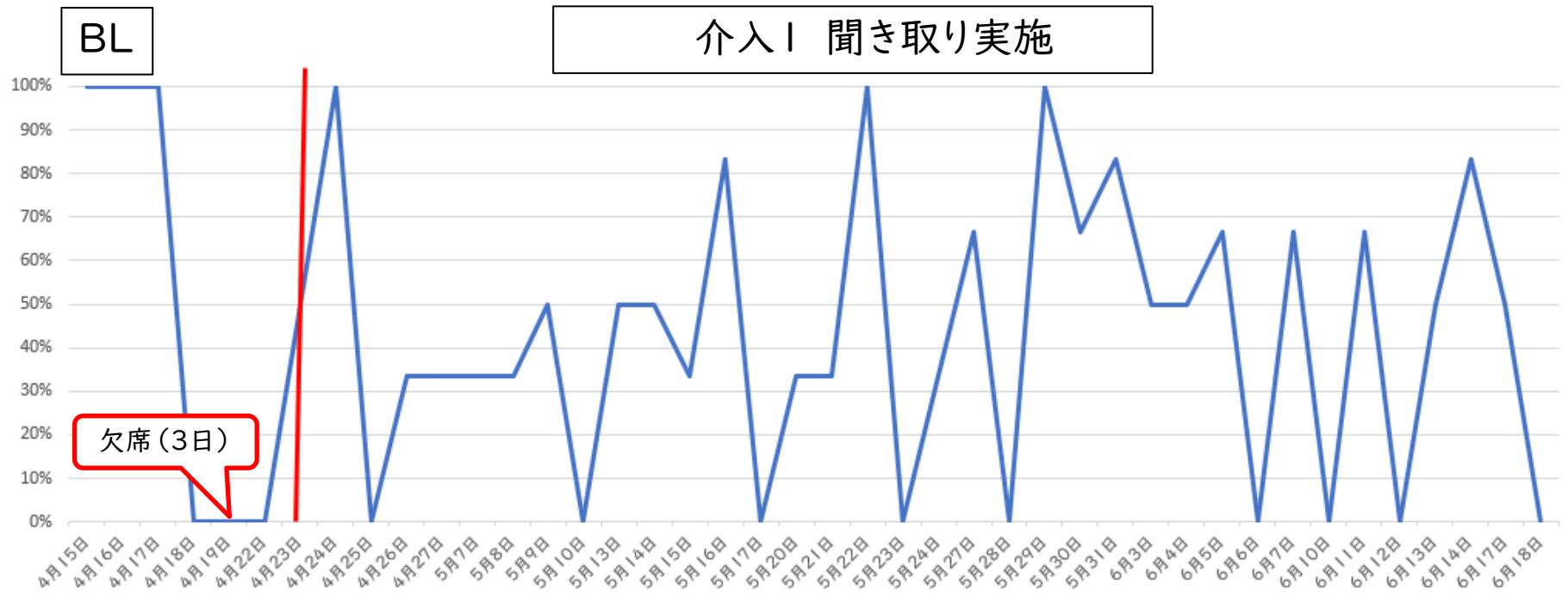
自分で「今の気持ち」を把握し、自分に負担をかけることなく授業に参加できる。

ステップ3

自己の意思決定が「選んで良かった・うまくいった」という安心・安定となるような気持ちの理解につなげることができる。

指導目標の現状の記録

授業参加率



- ・入学式(4月9日)より4月17日までは毎日6時間授業に参加。
- ・4月18日より3日連続欠席のため4月24日から心と身体の状態を聞き取り、記録を開始。
- ・10:00登校、14:00下校(出席率50%)を提案し登校しているが安定していない。
- ・行事やイベントが好きでフル参加した翌日は欠席している。
- ・5月29日から校内実習1週目(6月3日～)は連続して登校できたが、週末から登校・欠席を繰り返している。

助言内容

①身体と心の疲労度を確認する。

- ・心のメーターをわかりやすく緑・黄・赤に色分けし確認する

②がんばった次の日に休むことを崩す。

- ・登校した日に下校後の過ごし方と一緒に考える
- ・来るだけ、楽しいことだけ

③本人への関わり方を変える。

- ・安定登校→できたことをめちゃくちゃ褒める
- ・担任以外の教員が話を聞く
- ・SST(正しい関わり方を学習する)
- ・話を聞く姿勢(うなずいて聞いてあげる、相づちを打つ等)

助言を受けての見直し

①身体と心の疲労度の確認について

《現在》0-100% → 緑・黄・赤の3段階

《現在》身体と心の疲労度を別々に記録 → 1つにまとめる

②がんばった次の日に休むことを崩す

・下校前に次の日の確認

「これそう?」「来るなら何時間?」等

無理なら来るだけでもOK→来たらプチご褒美的な物

(例:5日連続登校できたら○○先生とトークタイムゲット)

③本人への関わり方を変える

・SSTについて学ぶ時間を作る

・できた(登校)をもっと褒める

・受容的に話を聞く

指導の手続き

- ①これからのこと(助言を受けての見直し①②)について本人に説明する
現在の状況、本人の希望、なぜの説明、今後の目標等
- ②身体と心の疲労度の表と一緒に作っていく
・登校できたかどうかの表を作成し、記録する
- ③それぞれ実施したことを記録する
・毎日の振り返り(授業参加時数、心と身体の疲労度)
・1週間ごとの振り返り(登校)

記録方法と記録

体調チェック表を4段階(『安心ゾーン』、『レベル1』、『レベル2』、『レベル3』)に設定。自分の今の状態と対処法を見て自分の今の状態や対処法を記録する。(朝・昼・下校時)

チェック表

レベル	本人の様子	対処法
レベル3	<ul style="list-style-type: none">・とても疲れている・体調が悪い(腹痛など)・集団にいられない・つらい・涙が出る	<p>授業参加方法:④・⑤ 落ち着く方法:1人で過ごす、ぬいぐるみタイム</p>
レベル2	<ul style="list-style-type: none">・人の声や音に敏感になる・疲れがたまってくる・集団におりづらいと感じる・人と話すことがしんどいと思う	<p>授業参加方法:②・③・④ 落ち着く方法:1人で過ごす、ぬいぐるみタイム</p>
レベル1	<ul style="list-style-type: none">・少し疲れている・少し緊張する・笑顔は作れる・短い時間なら人と関われると思う	<p>授業参加方法:①・②・③ 落ち着く方法:1人で過ごす、ぬいぐるみタイム</p>
安心ゾーン	<ul style="list-style-type: none">・元気・笑顔・落ち着いて授業できる・人と関わりたいと思う	<p>授業参加方法:①・② (調子がよいからといって、無理は禁物。積極的休憩を)</p>

<授業参加方法>

- ①集団で参加する。
- ②時間を決めて、参加する。
- ③別室で参加する。(途中で休憩を入れてもOK)
- ④休憩する。
- ⑤早退の相談をする。

記録方法と記録

Teams上で体調チェック表に登校時間、下校時間、体調レベル（朝・昼・下校時）、次の日の登校予定時間、授業ごとの参加方法の入力を本人が行う。

体調チェック表 ※ 毎日3回（登校時、昼食時、下校時）チェックしましょう。

レベル	10/7(月)			10/8(火)			10/9(水)			10/10(木)			10/11(金)			
	登校時	昼食時	下校時	登校時	昼食時	下校時	登校時	昼食時	下校時	登校時	昼食時	下校時	登校時	昼食時	下校時	
レベル3																
レベル2																
レベル1					○				○			○			○	
安心ゾーン	○	○	○	○			○	○		○	○		○	○		
明日の登校予定時間	8:50	登校時間	8:40	8:50	登校時間	8:40	10:00	登校時間	9:40	10:00	登校時間	9:50	10:00	登校時間	9:40	
出席	○	下校時間	11:30	○	下校時間	11:30	○	下校時間	16:00	○	下校時間	16:00	○	下校時間		
参加方法	時間割	活動内容	参加方法	参加時間	時間割	活動内容	参加方法	参加時間	時間割	活動内容	参加方法	参加時間	時間割	活動内容	参加方法	参加時間
①集団で参加する。	①前期終業式	表彰伝達式 前期終業式	①	40分	①後期始業式	全国障がい者スポーツ大会 会社行会	①	40分	①日特体	ラジオ体操 ウォーキングorバランスボール	①日体	ラジオ体操 ウォーキングorバランスボール	①日特体	ラジオ体操 ウォーキングorバランスボール		
②時間を決めて、参加する。	②特活		①	40分	②特活		①	40分	②手工芸	簡型小物入れ製作	①	50分	②家政	縫製	①	50分
③別室（オンライン）で参加する。	③特活		①	40分	③特活		①	40分	③手工芸	〃	①	50分	③家政		①	50分
④休憩する。							④国語	私のお気に入りの本発表	①	50分	④家政		①	50分	④体育	
⑤早退の相談をする。							⑤職業	現場実習のマナーについて	④	50分	⑤理社	防災について	①	50分	⑤人権コンサート	
確認	欠席理由:			欠席理由:			欠席理由:5日目!			欠席理由:			欠席理由:			

記録方法と記録

- ☆コンサルテーション実施後も10時登校14時下校(②～④時間目までの授業参加)を継続して実施(～10月1日まで)
- ☆本人と翌日の登校時間の確認を行っており、10月2日より10時登校16時下校(②～⑥時間)に設定
- ☆校内実習中(11月5日～11月15日)も10時登校16時下校(②～⑥時間)に設定

指導後の記録

夏休み以降の授業参加率(9月2日～11月8日)



指導の成果①

- ☆体調チェック表の記入を『安心ゾーン』、『レベル1』、『レベル2』、『レベル3』の4段階にすることで、自分の状態の把握が以前より正確になりつつある。
- ☆レベルによって対処法と授業参加方法を分けることで、本人と体調に合わせて参加方法を相談しやすくなり、不調時の休憩を促しやすくなった。
- ☆5日連続登校できたら（滞在時間にかかわらず）、話をしたい先生とプチトークができるというご褒美を設定し、9月17日に初めて担任とプチトークを実施。現在まで5回続けて記録更新中。

指導の成果②

☆他のクラスの生徒と仲良くなり、登校するモチベーションになっている。

☆校内実習等で他クラス、他学年との交流も見られるようになってきた。依存先を増やすことで登校の楽しみが増え、学校生活の充実につながっている。

☆一緒に登下校する友だちもでき、徒步通学となつたことで1日を乗り切る体力がついてきた。

具体的な相談内容

- ①明らかに体調レベルが悪化しているときでも、授業に頑張って参加しようとするときがあるので、休み時間毎に次の授業参加の確認、授業中の確認が継続して必要である。本人に配慮しつつ効率よく、あまり手間のかからない方法があればアドバイスをいただきたい。
- ②自発的にしんどさを伝えることも難しい。本人による正確な体調レベルの把握、それに伴う授業の参加の適切な選択方法があれば教えていただきたい。
- ③振り返りの時間を設定することが難しい。どこで取るかタイミングややり方等を教えていただきたい。

相談内容についての助言

①本人から言うことが難しいときは机の横に投函できるボックスを用意し、10分に1回体調の状況を投函する。

- ・「異状なし」は継続して参加
- ・投函するためのプロンプトが必要（定時報告）

②本人と他者との評価をお互いに知る。

- ・本人とのやり取りでチェック表を作成する（中身を充実）
- ・判断する基準を確認する

③Teamsを介した振り返り。

- ・記録を拡張して顔を合わせずにやり取りする
- ・本人が自発的にできるようにする

コンサルテーション後の指導

- ①カードサイズのチェック表を用いて授業の中間に気持ちの確認を行うことで、継続して参加できている。
- ②本人と担任間でやり取りを継続させることで、授業参加基準や欠課や休憩のタイミング等の共通理解が図れるようになった。
- ③Teamsで1日の振り返りと翌日の授業参加時間の確認ができるようになり、時間を設定することが大幅に減少した。

コンサルテーション以降の授業参加率

授業参加率(12月3日～1月9日)

介入4

体調不良による欠席(2日)



ここが成功のポイント

- 友人関係が充実し、登校のモチベーションになったこと。
- 体調チェック表が4段階になったことで状態の把握がしやすくなり、それに対応した授業の参加方法を選択できつつある。

最近では自分から1日の終わりに体調チェック表を教員を持って来て、一緒に振り返りができるようになった！
また「体調に合わせて無理なく授業に参加したい」「体調が悪くなってきたら早めに先生に伝えたい」という思いが芽生えてきたことに大きな成長を感じた。